



## 令和4年度 研修予定

	研修名	目的・内容	開催場所・日程(予定)
これから活動を 始めたい方に	まちづくりセミナー	さまざまな地域の福祉課題について活動・研究している方の話を聞き、地域づくりやボランティア・市民活動の参加促進を図ります。	ウェルとばた 10月～11月 【全3日間土曜開催】
	新たな社会問題に対応する講座 ～子育て支援ボランティア養成講座～	子どもの悩みごと相談や子ども食堂、虐待防止など、子どもが直面する問題に取り組むボランティア活動を紹介します。参加促進を図ります。	ウェルとばた 1回目：8月～10月 2回目：11月～1月
	ふくしのまちづくり講座	地域の課題解決と仲間づくりを目的に、校(地)区の方と一緒に企画・運営していく実践型の研修です。	開催校(地)区 4～3月 ※年間14校(地)区
	市民講演会	社会問題や地域課題を取り上げ、ボランティア・市民活動への参加のきっかけとなるような学習機会を提供する研修です。	ウェルとばた 10月
これから活動をさらに 深めていきたい方に	福祉有償運送運転協力者研修	シルバーひまわりサービス等福祉有償運送で、運転を希望する方を対象にした、福祉車両及びセダン型車両の実技や法規を中心に学ぶ、国土交通省が認定する講習です。	1回目: 福祉車両 6/4(土)クレカ若松 セダン型 6/11(土)ウェルとばた 2回目:10月 3回目:2月
	障害への理解を深め、はじめよう ボランティア入門講座	障害への理解を深め、障害のある方への支援のあり方について学び、ボランティア活動への参加促進を図ります。	ウェルとばた 6月
	プチ(小さな)ボランティア 養成講座	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、自分ができる範囲で日常生活の簡単な手助けをするボランティア活動についての講座です。	①小倉北区 5月・7月 ②八幡西区
	災害ボランティア養成講座	災害時の基礎知識や、災害ボランティアの役割・備え・心構えについて学び、自分に合う活動を見つけてもらい、活動への意識づけを行います。	①八幡東区 7月・9月 ②戸畑区
	送迎ボランティア・ フォローアップ研修	高齢者や障害者の移動を支援する送迎ボランティア活動者を対象に、安全・安心な活動が続けられるようにフォローアップを行います。	城野自動車学校 7月
	ボランティアリーダー研修	ボランティア団体等のリーダーや次期リーダーに、リーダーシップや運営手法を学んでいただくと共に、情報提供などを行い、スキルアップを図ります。	ウェルとばた 10月
自分たちの地域で活動を 進めていきたい方に	現任福祉協力員研修	福祉協力員が、活動を続けていく中での課題解決や新しい情報を身につけ、スキルアップを図る研修です。	各区 9～12月
	地域福祉活動専門研修	地域福祉活動に関する専門的なテーマについて知識や技術を高めめます。	ウェルとばた 12月
	地域福祉活動指導者研修 「トップセミナー」	校(地)区社協の役員等を対象として、社会福祉の大きな流れをつかみ、情報共有・提供を行うための研修です。	ウェルとばた 2月
	校(地)区社会福祉協議会 新任役員研修	校(地)区社協の新任役員としての基本的な姿勢や技術を学びます。	ウェルとばた 6/30(木)
活動を始めた 企業・社会福祉 法人の方に	まちづくりゼミナール	校(地)区社協・まちづくり協議会役員・市民センター職員等を対象として、より良いまちづくりをめざし、研修・情報交換・討論などを行い、みんなで活動を深めていくゼミナール形式の研修です。	ウェルとばた 9～11月
	企業の社会貢献活動セミナー	企業に向けて、ボランティア・市民活動の周知や企業単位での従事者向けボランティア講座開催の働きかけなどを行い、取り組みを促進する研修です。	オンライン研修 1月
	社会福祉法人の 社会貢献活動セミナー	社会福祉法人の社会貢献に対する理解を深め、ボランティア・市民活動へのきっかけづくりを目指す研修です。	オンライン研修 2～3月
活動を 支援する 方に	ボランティアコーディネーター研修	ボランティア活動を推進するため、福祉施設や市民センター、中間支援組織でコーディネーター業務を担う職員を対象として、コーディネーションの基本や技術を学びます。	ウェルとばた 7月

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などによっては延期・中止の場合もあります。

## シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」⑧

### 背中を押してくれる 身近な存在

東京都立大学 人文社会学部  
人間社会学科 社会福祉学教室

准教授 室田 信一 さん



私が地域福祉の活動に取り組むようになったのは、アメリカの大学に留学していた時のことです。当時は20歳前後、知人もいない地域で一人で暮らしていたため、地域に対する愛着があるわけではなく、外国人ということもあり、「住民」というよりも一時的に滞在している「お客さん」という感覚の方が強かったです。英語が流暢に話せたわけでもないので、地域の人と積極的にコミュニケーションをとることもせず、地域から孤立する存在でした。

そんな中、地域で活動していたあるボランティア団体と出会ったことで私の生活は一変しました。私が住んでいた地域は外国籍住民が多く居住する地域だったこともあり、その団体は多文化共生を推進する活動をしていました。その団体の代表の人が私にかけてくれた最初の言葉が今でも忘れられません。彼は、「君は何が得意なんだ、君は何がやりたいんだ」と、私に

期待してくれました。20歳前後の留学生の私に期待する人なんてそれまで一人もいませんでしたが、誰かに期待されたことで力がみなぎってきました。その後、私はそのボランティア団体の中に自分のプロジェクトを立ち上げて、たくさんの地域住民の参加を得て、活動を広げていきました。

地域の中には私のように、少し背中を押してくれる人がいれば力を発揮したくてうずうずしている人がたくさんいると思います。大事なことは、どうやって背中を押すかということです。担い手が足りないから手伝ってもらおうのではなく、その人が力を発揮して、一緒に活動する場が広がっていくようにコーディネートすることです。そうしたコーディネーターが増えることで、地域は少しずつ変わっていくと信じています。

## 地域福祉活動指導者研修 「トップセミナー」



今回は、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の適用中という事もあり、東京都立大学の室田准教授に講演いただいた動画を社協のホームページにアップする、オンデマンド形式で開催いたしました。

今回の講義は、大きく分けて、①地域が直面している課題、②岐路に立つ地域福祉、③地域共生社会という処方箋、④小地域福祉活動がある世界、⑤小地域福祉活動の広がり5つの項目で講演していただきました。社会的な排除や孤立で、希薄になってしまった「住民同士のつながり」をもう一度地域社会に取り戻すため、私たちが取り組むべき方向性を小地域福祉活動の実例を交えながらわかりやすく解説していただきました。

特に「ヒト、モノ、カネ、サービスといった地域の資源を循環させることで身近な地域の中で日常生活が成り立ち、ひいては地域の中での生きがいにつながってくる」という考え方は、私たちにとって、これからの活動のヒントとなるお話でした。